

英語は実技教科!? 教室中に英語が飛び交っていました!

10月27日(木)、英語科の垣花美幸先生が授業を公開しました(2年6組)。本時は、職場体験について、英語を使って自分の考えを伝えることが目的です。

私が学生だった頃は、フラッシュカードで単語の発音練習をしたり、文法を学んだりする、いわゆる「座学」が主たるものだったと記憶しています。しかしながら、**美幸先生の授業はスーパーアクティブ**で、日本語を使うことはほとんどなく、異国の地にいる錯覚を覚えました。



バディの大城みゆき先生は、「**最後に英文を記述させる**」ことの重要性について語っていました(図1)。

生徒と先生が一体となって創り出される表現活動のその先に、**最後は生徒が個になって記述する場面を設定**することで、生徒が本時で学んだことを**整理し、考えを形成し、再構成**することが期待できます。(本時で働かせたい見方や考え方、生徒がOutputする場面設定)。

本時のように、**単位時間の中で、「話す⇔書く」を往還させる授業デザイン**は、私自身も勉強になりましたし、他教科も参考にされたい実践です。

美幸先生、ありがとうございました。Good Job(^)/

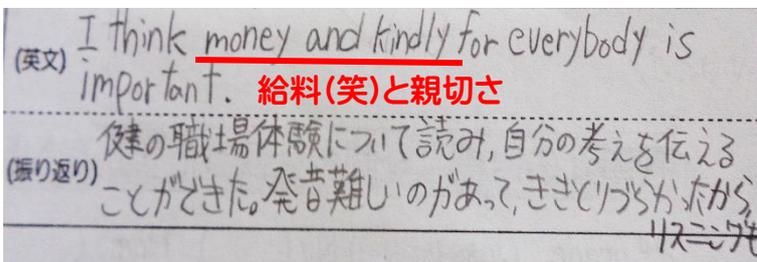


図1 右図④に対するMさんの英文

① Worm Up 帯活動(理想的な週末の過ごし方は?)

② インタラクティブな対話による「めあて」の設定

Mao's work experience
GOAL: 健の職場体験について読んで自分の考えを伝えよう。

③ 外国語による言語活動の充実(自分の考えを相手に伝える)



④ 視点を与え新たな問いを生み出す場面(最後に英文)

Today's sentence
What is important when you work?

+!
その理由などを加えよう。理由以外にもしたいことなどを入れるとよい。

「問い」が生まれる授業のポイント (外国語科)

～外国語科における「問い」を生かした授業～

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、日常的な話題や社会的な話題について、自分の考え、気持ちなどを、トピック作文、電子メールのやり取り、ディスカッション、ミニディベート等で伝え合ったり、表現したりすることを通して、必要な単語やフレーズの確認をしましょう。つまり「活用」と「指導」がスパイラルに循環する授業を展開することが大切です。

また、授業では、児童生徒から「問い」を引き出し、グループ内での対話を通して自分の意見を修正・強化をさせながら、問いを解決させましょう。そして授業が終わった後も新たな「問い」が生まれるような授業をめざしましょう。